

令和5年 9月1日

東京都立小平特別支援学校

校長 阿部 智子



学校だより

肢体不自由教育部門 〒187-0035 小平市小川西町 2-33-1 TEL 042-342-1671

病弱教育部門・武蔵分教室 〒187-0031 小平市小川東町 4-1-1 国立精神・神経医療研究センター病院内
TEL 042-344-4537

「暑くて『熱い夏』は、終わったのか・・・、まだ続くのか・・・」

夏季休業中、ほぼ毎日、朝から天気予報を見るたびに「本日も危険な暑さ」と言われて、気持ちがぐったりしていたのは私だけでしょうか。昨年の夏に比べて、外出やイベント参加など少し活動範囲を広げて、4年ぶりの夏休みを過ごせた方も多かったかもしれません。夏季休業中も、本校ではマチコミメールを通して、ウイルス感染への情報をお知らせしてきましたが、無事に9月1日を迎えることができました。御家庭での細やかな体調管理ありがとうございました。暑さもやわらぎ、宿泊行事や文化祭など大きな学校行事がひかえている2学期が始まります。気の緩みのないよう対応してまいります。

8月10日(木)「全国ボッチャ選抜甲子園」では全国優勝を果たしたことはすでに8月号外でお知らせしましたが、7月29日(土)東京都障害者スポーツセンターで行われた第3回ボッチャユニバーサルボウル東京大会には、2チームが参加し敢闘賞をいただきました。水色の「KODAIRA」Tシャツが大活躍です。本校の部活動では、様々な試合に向けて、陸上、ボッチャ、ハンドサッカーと、活動には流れがあります。コロナウイルス感染対策を十分に行いながら、3年間できなかった規模の大きな大会にも挑戦しています。「次に輝くのは君だ！」先輩の活躍をぜひ追いかけてほしいです。



【知ること(知識)と考えること(思考)・・・道徳授業地区公開講座】

9月27日(水)に道徳授業地区公開講座を行います。多くの保護者の皆様の御来校をお待ちしています。道徳授業地区公開講座の「ねらい」を実現するための児童・生徒への指導の創意工夫について、お話しさせていただきます。

道徳的価値とは、よりよく生きるために必要とされるものであり人間としての在り方や生き方の礎となるものである。学校教育においては、これらのうち発達の段階を考慮して、児童・生徒一人一人が道徳的価値観を形成する上で必要なものを内容項目として取り上げている。(特別の教科道徳編学習指導要領解説より)

内容として、下記のように4つの視点、22の内容項目に分けて示している。

「特別の教科 道徳」の22の内容項目 ※ **青字**は小学部だけにある内容 **赤字**は中学部で変わる・加わる内容

	A 主として自分自身に関すること	B 主として人との関わりに関すること	C 主として集団や社会との関わりに関すること	D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること
小学部	<ul style="list-style-type: none"> ・善悪の判断、自律、自由と責任 ・正直、誠実 ・節度、節制 ・個性の伸長 ・希望と勇気、努力と強い意志 ・真理の探究 <p>6</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・親切、思いやり ・感謝 ・礼儀 ・友情、信頼 ・相互理解、寛容 <p>5</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・規則の尊重 ・公正、公平、社会正義 ・勤労、公共の精神 ・家族愛、家庭生活の充実 ・より良い学校生活、 集団生活の充実 ・伝統と文化の尊重、 国や郷土を愛する態度 ・国際理解、国際親善 <p>7</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生命の尊さ ・自然愛護 ・感動、畏敬の念 ・よりよく生きる喜び <p>4</p>
中学部	<ul style="list-style-type: none"> ・自主、自律、自由と責任 ・節度、節制 ・向上心、個性の伸長 ・希望と勇気、克己と強い意志 ・真理の探究、創造 <p>5</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・思いやり、感謝 ・礼儀 ・友情、信頼 ・相互理解、寛容 <p>4</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・遵法精神、公德心 ・公正、公平、社会正義 ・社会参画、公共の精神 ・勤労 ・家族愛、家庭生活の充実 ・より良い学校生活、 集団生活の充実 ・郷土の伝統と文化の尊重、 郷土を愛する態度 ・我が国の伝統と文化の尊重 国を愛する態度 ・国際理解、国際親善 <p>9</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生命の尊さ ・自然愛護 ・感動、畏敬の念 ・よりよく生きる喜び <p>4</p>

従来の「道徳の時間」は、各教科等に比べて軽視されがちであり、読み物の登場人物の心情理解に偏り、主人公の気持ちを考えさせ、それを書かせたり、発表させたりする授業になっていたことが課題とされてきました。「国語」の読み取りの授業と混同されやすいと言えます。例えば、文学的文章を読んで、「主人公はなぜこのようなことをしたのか?」という問いは、教材から答えを見付ける問いであり、「自分にとってどうなの?」ということを考える必然性のない問いです。つまり、「特別の教科 道徳」では、自ら、考えざるを得ないテーマを投げ掛けたり、人と話をするテーマを設定して問い掛けたりして、児童・生徒が自分なりに考え、言葉にすることを通して、自ら考えを深め、自分自身の問題ととらえ、向き合う、「考える道徳」「他者と話して言葉を整理する道徳」に取り組んでいかななくてはなりません。「考えに足る発問」「他者と話をするための発問」を工夫して多面的・多角的に考える学習を充実させることが必要です。小平特別支援学校では「特別の教科 道徳」の時間で自分の考えを深める思考のプロセスを大切にしていきたいと考えています。



【自己の考えを深める思考のプロセス】



問題について、児童・生徒が自分のこととして主体的に「問い」続ける中で自分の「判断」をもち、他者と話して、へーそなんだ!と「気づき」に至るまでの思考のプロセスを支えるのが「主体的・対話的で深い学び」の視点です。特に児童・生徒が新たな「気づき」に出会うためには「深い学び」が必要です。そのためには、「明確な意図に基づいた授業構想」とともに、児童・生徒の「自己の考えを深める思考のプロセス」を意識した指導の実践が大切である。(道徳科 指導と評価のガイドブックより) とされています。

◎ 知的障害を有する児童・生徒の教育課程上の「道徳」の取扱い

小平特別支援学校では、「道徳」の内容は「各教科等を合わせた指導」で適切に取り扱うとともに、全ての授業において関連を密にしながら経験の拡充を図るものとしています。

特別支援学校学習指導要領 第3章「特別の教科 道徳」においては、知的障害者である児童又は生徒に対する教育を行う特別支援学校において、内容の指導に当たっては、個々の児童又は生徒の知的障害の状態、生活年齢、学習状況及び経験等に応じて、適切に指導の重点を定め、指導内容を具体化し、体験的な活動を取り入れるなどの工夫を行うこと。とされています。

➡ 評価においては「日常生活の指導」「生活単元学習」等で「道徳性」を育てるためにどのような指導を行い、どのような「学習状況及び道徳性に係る成長の様子」があったかを3観点によらず、端的に記録します。

【図書室大改造計画実施・・・図書室がより身近なものになるように・・・】

図書室の蔵書の整理を夏季休業中に行いました。全ての本を一つ所に集め、分別、補修、バーコードを張り付け、パソコン入力し、一括管理、そして分類。あるべき場所に本を戻していくという図書室大改造計画を実施しました。始業式での図書室リニューアル式では、生徒によるテープカットを行いました。図書の貸出・返却はバーコードをピッと読み取ることでできるようになりました。1階の図書コーナー、3階の図書室を活用して、みんなの図書室をより使いやすいものにしていきましょう。



【9月8日(金)総合防災訓練実施します!】

関東大震災から100年の報道を見て思うこと・・・1923年9月1日は土曜日でした。午前11時58分、マグニチュード7.9の大地震で、死者・行方不明者は10万5千人に上ったそうです。100年前の状況とは全く異なりますが、いつ起こるかかわからない、何の前ぶれもなく突然起こるのが災害なのだと思えばなりません。

3年ぶりに行った昨年の総合防災訓練では、引き渡し訓練を中心課題において行いましたが、「その時に」子供たちをいかに安全に校内で守るのか?という訓練として感染症対策を講じる中ではできなかった、アリーナでの全員集合での点呼、帰宅困難者支援事業、地域避難者対策も念頭に置いた総合的な訓練といたします。保護者の皆様もその時どうするのか?ぜひ、思いを一つに御協力いただき、総合防災訓練に御参加ください。

校長 阿部 智子